

臍帯血移植の女性退院

「日常生活に戻れる奇跡」

急性骨髄性白血病を患い、名古屋第一赤十字病院(名古屋市中村区)で臍帯

血移植を受けた愛知県一宮市のフィリピン人女性、ターラ・エンリレさん(38)が四日、退院した。混血で希少な免疫組織の型だったため治療は難航し、帰宅の日を迎えたことに「奇跡です。普通の生活に戻れるのは本当にうれしい」と声を弾ませた。

昨年十二月に移植後、順調に健康な血液が作られ始めており、病院は、拒絶反応も抑えられて安定していると判断。今後、二年程度

は一宮市の自宅から通院し、徐々に通常の生活に戻していく。

この日、病院には支援者二人と一人娘のカーラちゃん(4)が駆けつけた。面会が制限されていたエンリレさんは、娘との二月ぶり



退院して娘のカーラちゃんを抱きしめるターラ・エンリレさん(左)＝4日、名古屋市中村区で

の再会を抱き合って喜んだ。「多くの人の支えがなかったら、こうして娘とのハグ(抱擁)はなかった」と喜びをかみしめた。

移植成功は善意と偶然的の産物だった。適合する骨髄か臍帯血を探し出しても、移植には多額の費用が必要。一宮市の支援団体が昨年七月から寄付を募り、本紙報道による読者の寄付も

含め一千万円以上が集まった。

国内の骨髄バンクと臍帯血バンク、日本と提携する海外の骨髄バンクでは、適合者や必要な量の臍帯血が見つからず暗礁に乗り上げかけたが、赤十字病院の宮村耕一副院長が昨年十一月、視察先の米国の臍帯血

増税前の今がお得!
BANK OF NIPPON 名古屋駅西店

バンクで偶然見つけた。

臍帯血バンクの海外との提携は、まだ実現していない。「海外に視野を広げることで、患者を救える可能性が高まる」と宮村副院長。今回のケースが国際協力への弾みになると期待している。